

9/27

学生戦線

9/27

社会主義学生同盟
市大支部発行

10・8ケバラ山崎追悼力デモ 10・21全世界革命的 人民総躍起 市大へ全学生へトで御堂筋突破を

一九六七年十月ボリビア山中でCIAとボリビア軍によつて惨殺されたエルネスト・チエ、ケバラの死は、日本の革命斗争にとって中絶の日となつた十月八日佐ト前バト阻止の斗いの中で殺害された山崎君の死は、懸命な死を死んだ二人の戦士が我々に残していったものは何なのか、平和共存体制の甘美さによいしれていた我々に最も重大な任務を思い出させ、そして、今も尚死をもつて斗い抜いていくバトナム人民の解放斗争のもつ意味を我々に確認させたのも、自らの生命を賭して斗った彼らなのだ。巷にあふれる山崎、ケバラそしてその同志について書かれた文章を読んで哀悼の意を表することによって連帯する季節は終った。フランスでチエゴでメキシゴで、熱に無数の山崎、ケバラが斗い傷ついていたのだ。我々は彼らと同じ世界に同じ歴史に生きていくのだ。彼らの死を殺すな。

全世界的危機と日帝の動向

右進口の矛盾を集中的に浴び死な極限を迫られているバトナム人民に対する支援は単に戦争反対を叫び、平和平和会談の進展に幻想を抱くだけでは何も解決しけない。現代世界は、チエゴ、仏、西独そして日本に見られるごとく、全世界的に危機の進行過程にあり、そしてその危機は全世界革命によつてしか解決しえないのである。即ち米ソ平和共存体制は、EEC、日本の諸国主義の復活を根柢的に崩れ去ろうとし、そして、この後進帝国内部では海外侵略への国内体制の再編という矛盾をはらみ、それを弾圧する事によつてしか平和は保ちえないのである。国内における反革命弾圧の強化と、侵略軍隊の自衛隊の軍事力強化が計られている過程にあつて、我々が成さねばならないことは、この日帝の侵略線に反対する闘いを果す事であり、その事は更に全世界で闘い続ける人民、特に東南アジアと連帯することである。

のである。

10・8労学デモ10・21全学生デモ

全東東の学友諸君、10・8ケバラ山崎追悼デモに起つて、日帝の七〇年安保を環とした侵略・反革命を粉碎せよ、その斗いを受けつち10・21日帝反帝斗争を、OLAS、NCC、SDS、BPP、JCRと連帯した全世界人民の武装斗争で斗いぬこうではないか、八日のチエゴ事件に受けたこと、今や帝国内の世界的危機に規定された過渡期社会体は、社会党の非武装中立、共産党の自主自立では何にもならないどころか、まづこの自体は革命解放斗争の阻害物となつてしまっている。EEC内に於ける西独、アジアに於ける日帝の台頭の結果米帝の世界の盟主としての支配は終り、帝国内の対立抗争は、中立或いは自主独立の幻想を許さないだろう。帝国内列強の侵略反革命軍事同盟・NATO、安保を粉碎する斗いこそが危機を崩壊し、新たな世界を創り始める道である。これらの軍事同盟を更質的に解体する先進国革命斗争こそ我々の任務である。

10・8斗争は、ケバラ、山崎の死を象徴する新たな戦線を持つた革命斗争の展開である。全学生と反戦青年委員会は日本でのその斗いを継続させ発展させてきた。全学生連、明大、中央、専修、同志社、京大、桃大でストライキで躍起する。我々の斗いは試験期という困難を突破して、全大阪反戦と断固としたデモを獲ちとらねばならない。この斗いを通して、10・21日帝反帝デモに全学生と躍起しようではないか。現在必要な事は、全ての学生、全てのクラスに、10・21を突破口とした、全世界の激動を突破する確固たる、反帝斗争部隊を組織する事である。統一会議、民学同盟の提起する、「スト更迭委」のカンパニア主義にまどわされず、展望を持った斗争委員会こそが我々の斗いを継続させるのである。